



岩淵小 学校だより



岩淵小 HP

令和 6 年 10 月 31 日

1 1 月号

北区立岩淵小学校

校長 荒木 克之

本の世界に触れる

校長 荒木克之

10月26日に実施された運動会では、お忙しい中にもかかわらず、多くの来賓の皆様方、保護者の方、地域の方にご参観いただき、誠にありがとうございました。子どもたちが、全力で走り、踊り、応援する姿、また、対戦結果に一喜一憂する姿をたくさん見ることができ、嬉しく思いました。岩淵小学校での、校長としての初めての運動会でしたが、今までの運動会の経験の中でも特に印象深く、一生思い出に残るものになりそうです。

子どもたちが自分たちの全力が尽くせたのも、多くの方の応援があってこそだと思いません。特に、保護者の方々の声かけ、励まし、そして体調管理のおかげです。温かく支えて下さり、感謝しております。

さらに、PTAの皆様、元気会の皆様におかれましては、運営面で多大なるお力添えをいただきました。子どもたちのために、学校のために、進んで活動して下さる姿に、本当に頭が下がりました。11月9日(土)には、PTAの運営による「岩小まつり」も予定されています。子どもたちも大変楽しみにしている行事で、PTAの皆様方には、お忙しい中ご尽力いただいております。こちらも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

さて、11月に入り、少しずつ秋も深まって参りました。「読書の秋」という言葉もあるように、日暮れが早くなるにつれて、じっくりと本を読むことができる季節になってきました。この機会に、本の世界に浸ってみるのも、よいと思います。

ただ、昨今の世の中の読書事情は、あまり芳しいものではありません。9月17日に文化庁が公表した「国語に関する世論調査」によると、「読書 月に0冊(電子書籍含む)」が、全世帯で6割にのぼることが分かりました。5年前の調査では、5割に満たなかった「月に0冊」の割合が、一気に増えた形です。年代や地域に限らず、大人も子どもも、半分以上の人が本を読まなくなったという、かなり深刻な事態のようです。デジタル機器の普及とアプリサービスの進化が進んでいることが一因とされています。(実は私自身も、スマートフォンを見る時間が増えたことで、読書時間が減ってしまったと感じている一人です。)皆さんの、そして、お子さんの読書事情はいかがででしょうか？

ところで、読書をする事のよさとは何でしょうか？先日惜しくも亡くなられてしまった、初代ドラえもんの声を担当した声優の大山のぶ代さんは、声優になりたいという6年生の子どもにこんなことを伝えたそうです。

「学校に行っている間に、いろいろな本を読むと、自分では経験は出来なくても、いろいろな人生を読むことが出来ますね。そうやっていろいろな人のお話を読んだ結果、どんな役がきても、それを読んだときにすぐにスッと分かるような、自分の知識や感性を蓄えて、それを表現することが出来るのですよ。」

本を読まなければ自分の人生は1人分の経験に過ぎません。しかし、伝記やノンフィクションのお話はもちろん、物語や絵本を読むことでも、自分では経験できない世界に触れ、その登場人物の気持ちを味わうことが出来ます。本を読むことで、何人分もの人生を味わい、喜怒哀楽を感じることができるのです。そうやって培った多様な感性、考え方、共感する力を身につけることは、幸せな生き方を見つけることにつながるのだらうと、私は思っています。

本は、本人が楽しいことが一番です。どんな本でも、楽しんで読むことから始めてみませんか？そして、「本を読みなさい」という一言よりも、親が本を楽しそうに読む姿を見せることが、何より子どもたちに楽しさが伝わります。ぜひ、親子で本にふれる時間を作って下さい。